

むずかしいことをやさしくやさしいことをふかく井上ひさしさんの言葉から

金曜日に分科会リハを行い、私も国語、図工、音楽、道徳の分科会に参加しました。どの教科部もこれまでの取り組みがよく伝わるように工夫した構成になっていました。公開まであまり時間がないところですが、分科会の最後に伝えたこと、もう一度整理してみたいと思います。

まず、公開まで時間がないので、優先順位を決めて取り組んで欲しい、ということです。分科会は授業の検討が中心であり（そうあって欲しい）、子どもの姿を通して今日の授業はどうだったか、研究の視点や共同研究で言うところの「要件」はどうか、ということについて検討して欲しい、と思います。乱暴な言い方ですが、研究の概要は要項に、各教科部の研究の詳細は紀要にあるのでそちらをうまく使って、説明に生かして欲しいと思います。

次に発表の内容ですが、思い切って内容を絞ってください。10分間で、主題設定の理由から、共同研究との関わり、視点、実践例、連携など全てを伝えることは難しいと思います。繰り返しになりますが、研究の詳細は『研究紀要』にまとめてあるので、ぜひ紀要を紹介してください。また、参観の先生方の手元には当日の要項があるので、「〇ページに主題の文言の説明があります」などその要項をうまく使うことも心がけてください。

最後に、プレゼンテーションです。音楽科では実際に発表の中で手拍子を入れたり、図工科では作品の製作過程をアニメーションを活用したりして紹介するなど、教科の特質に応じたプレゼンはやはり効果的でした。どうしても「研究」に関することは「難しい」言葉も多く含まれるので、そのあたり今後工夫の余地はあるようです。井上ひさしさんの言葉「**むずかしいことをやさしく やさしいことをふかく**」です。



さて、先週は全校で花壇に花を植える活動に取り組みました。微笑ましかったのは、6年生と1年生と一緒に活動していた風景です。たてわり活動は、附属小で長く続いている活動です。フリー、ロング、ショート、そして秋の「なかよし運動会」と異年齢の子どもたちが自然と一緒に活動する場面がたくさん準備されています。

このような何気ない風景の中にも「たてわり」が生かされていること、とても嬉しく思いました。それにしても6年生の先生方と子どもたちには本当に感謝です。先週、6年生はプール清掃にも取り組みました。今週も公開研究会に関する様々な作業に私たち職員とともに取

【6年生と1年生と一緒に】 り組む予定です。

附属小の最高学年として、授業での姿はもちろん、学校生活の全ての場面で「手本」としての活躍が6年生には求められます。それだけに先生方の期待も大きく、全職員が温かい目で6年生を見守っています。公開研究会では、4年生と6年生が学年合唱を発表します。合唱の会とも違って、公開研究会での合唱はまた格別です。子どもたち一人ひとりにとって成長の糧となる公開研究会であることを願っています。

(文責：副校長 手代木)